

## 製品・サービス動向-国内

## ■ コミュニクラウドジャパン：ドルビーステレオサウンドに対応したクラウド型電話会議サービスを提供

(取材：11月16日)

「当社のクラウド型音声会議サービスはクリアで聞き取りやすい、あのドルビーボイス音声を採用している。一度使ったら、従来のアナログ回線での電話会議にはもう戻れないと思う。」(コミュニクラウド)

コミュニクラウドジャパン株式会社 (<https://communicloud.co.jp/>) (神奈川県横浜市)は、昨年から、ドルビーボイス音声を採用した音声会議サービス「BT MeetMe with Dolby Voice」を提供しており、今回は横浜パシフィコで開催された ET & IoT Technology 2018 (11月14日～16日)に出展した同社取材し、既存のアナログ回線と比べた品質差など BT MeetMe Dolby Voice の特長やメリットについて伺った。



コミュニクラウドジャパン ブース

電話会議サービスというとアナログ回線を使った電

話会議をまず思い浮かべる方が多いかもしれない。BT MeetMe with Dolby Voice はクラウドサービスと銘打っていることもあり、インターネット上で開催する IP 電話会議サービスになる。

このサービスの最大の特長は、ステレオサウンド (HD) を採用しているため、音声品質が高いところ。実際に CNA レポート・ジャパンの橋本啓介も音声デモを会場で体験した。アナログ回線で電話会議に慣れている人であればこの品質差はすぐにわかる。一度使うともう戻れないというもうなずける。

しかし、音がいいだけではない。コミュニクラウドジャパンは、BT MeetMe with Dolby Voice の特長として3つ挙げる。

一つは、繰り返すがステレオサウンドに対応していること。スピーカーから聞こえてくる声がシャープではっきり聞こえる。

ただし、ステレオサウンドで電話会議を行うためには、同社が指定するソフトフォンや専用アプリ (パソコンからであれば対応ブラウザのみで可能) を使用する必要がある。あるいは同社では会議室での使用を想定した、ドルビーボイス専用の電話会議端末機「ドルビーカンファレンスフォン」も推奨している。

二つ目は、5人まで対応した話者分離機能が実装されているということ。ドルビーボイスでの電話会議の様子は、会議室で会議テーブルに座っている人がそれぞれ発言すると、それぞれの位置の方向から声が聞こえてくるような雰囲気似ている。つまり、他者の声と被らないように一人一人の発話を分離する仕組みが施されている。分離されているためそれぞれの声を容易く聞き分けることができる。

三点目の特長は、会議室などの人の声とは関係のない、書類や空調などのノイズをカットして、相手には

声のみを送る処理を行っている点。

その威力を知ってもらうため具体例をひとつあげる。16回の優勝経験があるウィリアムズ F1 がサーキット会場と英国本社とのコミュニケーションにこの BT MeetMe with Dolby Voice を使用している。BT MeetMe with Dolby Voice は、フォーミュラー 1 のサーキット会場で爆走するレーシングカーが発する 80~100 デシベルの音も大幅に低減する能力があるため、レース中の爆音の中でも快適に電話会議が行えるという。



コミュニクラウドジャパン ブース

一般のアナログ回線電話会議であると周りの音も全て拾ってしまう。だが、この Dolby Voice 対応の方は、ステレオサウンドに加え、一人ひとりの発話を分離し、しかも、周りの環境音を低減することで、はっきりした聞き取りやすい音声を実現している。まさに次世代の電話会議サービスと思わせる音声品質を実現している。

BT MeetMe with Dolby Voice の料金体系は、初期費用のほか月額基本料金はなく、また最低契約期間の設定はない。使った分だけの従量課金(1分当たり)のみとなっている。加えて、オプションで画面共有などの Web 会議 (Cisco WebEx) や録音機能も利用でき、同社ではイベントコールやオンサイトサポートなども提供している。

さらに、会議に参加する際には専用パスコードを用い、会議中の操作についても、プッシュホン式の電話機/携帯電話で会議のミュートなどを行うのと同じような操作感覚で操作できるようになっている。

会議室から BT MeetMe with Dolby Voice を利用するのであれば、ドルビーカンファレンスフォンがベストだが、既存のパソコンやスマートフォン/タブレット等にビジネス向けのマイクスピーカーを組み合わせたる使い方でもドルビーボイスのメリットは享受できる。ただし、ドルビーカンファレンスフォンの場合でもそうだが、一般的なアナログ電話も交えた電話会議を行う場合は、音声品質はアナログ電話の品質と同等になる。

アクセスポイントについては、海外との電話会議に十分な世界約 40 か国にローカル電話番号を設置している。それぞれの国から低コストで携帯電話や固定電話からも参加できる。加えてフリーダイヤルやダイヤルアウトなどにも対応している。

「BT MeetMe with Dolby Voice を始めるからといっても、改めてユーザトレーニングをするほどのものではない。使用の仕方は一般的な従来の電話会議サービスと同じで、既に他社等で利用経験があればスムーズに当社サービスに移行できるはず。もちろん、初めての電話会議でも簡単に始められると思う。まずは 2 週間の無償トライアルを利用して体感してほしい。」(コミュニクラウド)

コミュニクラウドジャパンでは、今回紹介した BT MeetMe with Dolby Voice という高品質な音声電話会議が行えるサービスのほか、ビデオ会議を利用中もしくは検討中の企業向けに提案している次世代型クラウドビデオ会議サービス「InView」、大規模まで対応したオンラインイベント配信サービス「BlueJeans Events」、オンサイトによるトータルサポートを提供する「イベント配信サポート」なども提供している。社長訓示・トレーニング・顧客向け製品紹介などの配信の際に、WebEx 会議やストリーミング、ビデオ会議にオンサイトで専門の担当者がサポートするサービスになる。

※関連記事：2016年3月15日号

## ■NEC フィールディング：スマートグラスを活用した「遠隔支援ソリューション」の販売を開始

(11月20日)

NEC フィールディング株式会社 (<https://www.fielding.co.jp/>) (東京都港区)は、スマートグラスを活用した「遠隔支援ソリューション」を11月20日より販売開始する。

本サービスは、作業員が装着しているスマートグラスから送られた現地映像を遠隔地のオペレータが共有することで、作業員へのアシスト、作業の見守り、注意喚起を行い、現地作業の支援を行うソリューション。

サービスは、「トライアルサービス」と「設計・構築サービス」の2つを提供している。トライアルサービスは、同社が準備した機材で導入後の有効性を体験することができるもの。スマートグラス(2台)、タブレット端末(1台)、モバイルルータ(4台)、LTE回線(50GB)、支援用PC(1台)、遠隔支援ソフトウェアをセットで1カ月間貸し出す。費用は基本料金25万円(税別)。

また設計・構築サービスは、導入環境でのネットワークの設計、セキュリティの確保、スマートグラスのソフトウェアインストールを行うものになる。費用については個別見積となる。

NEC フィールディングでは長年にわたり、法人の顧客企業にIT機器の保守サービスを提供してきた。非IT機器への保守対象機器を拡大するなかで、保守技術の多様化と高度化が進み、高品質なサービスを継続的に提供するための仕組みづくりが必要になっていくと感型。

そこで、約1,200台のスマートグラスをカスタマエンジニアに配布し、顧客先での想定外の事象発生時にスマートグラスから送られた現地映像を遠隔地にいる技術部隊が共有することで、作業の支援、見守り、注意喚起を行い、作業品質や生産性の向上を図った。今回発表されたソリューションは、国内最大規模のス

スマートグラスを活用した社内の活用ノウハウをサービス化したものとなる。

## ■リコー：大画面 86 インチタッチディスプレイを採用した「RICOH Interactive Whiteboard D8600」を発売

(11月14日)

株式会社リコー (<http://jp.ricoh.com/>) (東京都大田区)は、大画面 86 インチタッチディスプレイを採用した「RICOH Interactive Whiteboard D8600」を発売した。



RICOH Interactive Whiteboard D8600 (リコー)

新商品は、2016年6月に発売した「RICOH Interactive Whiteboard D8400」の後継機として発表するもので、インタラクティブホワイトボードとしては国内最大級のディスプレイサイズとなり、4Kにも対応している。同社によると、大規模会議室や企業の受付、公共施設・イベント会場でのインフォメーションボードとしての利用に最適という。

基本的な表示機能の面では、蛍光灯の光がディスプレイに映り込みにくくする処理を強化したり、高品質ディスプレイを採用し、より鮮やかな映像を実現したほか、最適なセンサーを採用することでタッチペンによる書き心地を向上させた。

また、Interactive Whiteboardのラインナップとしては最も細いスリムベゼルを採用することでよりスタイリッシュなデザインを実現したほか、美観を向上するためにケーブルを収納することで「壁に埋め込みたい」

「壁掛けにしたい」といった空間調和を重視するユーザのニーズに対応した。

そのほか、「正面で USB を使いたいだが配線は隠したい」といったニーズや、本体の利用を認証するための IC カードリーダーを設置することが可能になるなどのオプションも提供している。

## ■サンワサプライ：WEB 会議に最適な、カメラ・マイク・スピーカー一体型スピーカーフォンを発売

(PRTIMES:11月14日)

サンワサプライ株式会社 (<https://www.sanwa.co.jp/>) (岡山市北区) は、フル HD カメラ・マイク・スピーカー一体型の WEB 会議スピーカーフォン「400-MC013」を発売した。



WEB 会議スピーカーフォン「400-MC013」  
(サンワサプライ)

WEB 会議を行う場合、カメラ・マイク・スピーカーなどを別々に用意する場合があります。しかし、本製品はそれらが全て内蔵されており、本製品 1 台で WEB 会議が行える。ドライバーが不要で、付属の USB ケーブルを 1 本パソコンに接続するだけの簡単接続。

カメラはフル HD 対応で、広視野角 105° のガラスレンズ採用によりワイドに撮影することができる。またスピーカーは全指向性マイクを搭載しており、集音範囲は半径 2.5m。音量は上部のボリュームボタンで音

量を調整できる。主な WEB 会議ソフトに対応しているとしている。

本製品のサイズは、約 W745 x D72 x H276mm。重量は約 471g (本体のみ)。省スペースであるため置く場所を選ばない。ケーブルの長さが約 3m の USB ケーブルを付属している。

## ビジネス動向-国内

### ■ブイキューブ：遠隔現場支援システム「xSync Prime Collaboration」が国土交通省の新技术情報提供システム「NETIS」に登録

(11月19日)

株式会社ブイキューブ (<https://jp.vcube.com/>) (東京都目黒区) は、遠隔現場支援システム「xSync Prime Collaboration」が国土交通省の新技术情報提供システム「NETIS (ネティス)」に登録されたことを発表した。

NETIS (New Technology Information System) は、民間事業者が開発した有用な新技术を活用するためのデータベースシステム。新技术を活用して公共事業におけるさまざまな問題点を解決するとともに、優れた技術を持つ企業をサポートし、さらなる新技术開発を促進することを目的としている。

ブイキューブの xSync Prime Collaboration は、2017 年 5 月に i-Construction 推進コンソーシアムで行われたシーズとニーズのピッチイベントをきっかけに、東北地方整備局における実証実験で活用された経緯がある。その評価結果を受けて、その有効性を広く建設現場へ伝えるべく、実証実験を協力して行ったりんかい日産建設株式会社 (<https://www.rncc.co.jp/>) (東京都港区) と共同で NETIS に登録されている。

施工者が新技术の活用を提案し、実際に工事で活用された場合は、活用の効果に応じて工事成績評定での加点の対象となる。なお、NETIS 登録番号は THK-

180002-A となっている。

工事現場の可視化と遠隔地での確認という技術ニーズにおいては、現場監督・検査の負担軽減、施工状況の確認による工事事務抑制、施工体制の点検と施工実態の把握が、解決すべき喫緊の課題として挙げられているが、そういった中、xSync Prime Collaboration が評価されたポイントは、(1) 建設現場でのさまざまなシーンに適用した機材を活用できること、(2) 複数の拠点で現場状況を共有できること、(3) 電子データをリアルタイムに共有し書き込み指示ができること、(4) 内容を記録してレポートとして残せること、(5) 通信状況の悪い環境でも使えること、(6) パソコンだけでなくスマートフォンやタブレット、スマートグラスから誰でも簡単に使えること、などとなっている。

今後、今回のような取り組みを加速し、現場のニーズに呼応したサービス開発を進め、インフラや建設業といったフィールドワークの働き方改革に最適なソリューションを提供していくとしている。

PR

(広告掲載順)

## ■ヤマハ株式会社

USB スピーカーフォン FLX UC 500

[https://sound-solution.yamaha.com/products/uc/flx\\_uc\\_500/index](https://sound-solution.yamaha.com/products/uc/flx_uc_500/index)

## セミナー・展示会情報

### <国内>

#### ■ブイキューブセミナー情報 (12月～2019年2月)

「働き方改革セミナー 失敗しない「Web会議」「テレビ会議」選び方徹底解説」「<スマートグラス体験セミナー>ハンズフリーで現場作業を遠隔支援!」「2分でかんたん動画作成 社内動画活用で働き方改革を推進!」など  
会場 (東京・大阪・名古屋・福岡・Webセミナー)

詳細・申込: <https://jp.vcube.com/event/all>

■手軽にはじめられるテレビ会議・Web会議システムのご紹介～RICOH UCSで、いつでも・どこでも、だれでも・だれとでも繋がります!～

日時: 12月12日(水) 午後 1時間のセミナーを2回開催 (同内容加)。

会場: リコージャパン 晴海トリトン事業所

主催: リコージャパン株式会社

詳細・申込:

<http://www.ricoh.co.jp/event/seminar/18S130.html>

■手軽にはじめられるテレビ会議・Web会議システムのご紹介～RICOH UCSで、いつでも・どこでも、だれでも・だれとでも繋がります!～

日時: 12月26日(水) 午後 1時間のセミナーを2回開催 (同内容加)。

会場: リコージャパン 晴海トリトン事業所

主催: リコージャパン株式会社

詳細・申込:

<http://www.ricoh.co.jp/event/seminar/18S131.html>

国内その他: <http://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他: <http://cnar.jp/cna/event-r.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

CNAR.jp サイトの情報もご参照ください。

## 業界の動き

遠隔会議・UC 業界は日々さまざまな動きがあります。この定期レポートの発行は月2回 (プレスリリースと取材に基づく記事) ですが、CNA レポート・ジャパンでは、業界の動きに関連した国内外の情報を日々皆さんと共有しています。よろしければご参照ください。

#### ■フェイスブック (遠隔会議&UCトレンドワッチ)

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

#### ■Twitter (CNA レポート・ジャパン)

<https://twitter.com/cnarjapan>

■メーリングリスト（dte-forum）

<http://cnar.jp/cna/dteforum-ml.html>

定期レポートバックナンバー

■PDFファイル版（1号毎PDFファイル）

>2003年～2018年最新号（1号毎PDFファイル）

<http://cnar.jp/cna/cnareportarchive.htm>

■電子ブック版（複数号まとめているのもあります）

>2003年-2013年：

[http://www.catalog-square.co.jp/cna\\_report/](http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/)

>2014年-2017年：

[http://www.catalog-square.co.jp/cna\\_ebook/](http://www.catalog-square.co.jp/cna_ebook/)

電子ブック制作：カタログスクウェア株式会社

<http://www.catalog-square.co.jp>

CNAレポート・ジャパン 2018年11月30日号おわり

ホームページ: <http://cnar.jp> お問い合わせ: [cnar@cnar.jp](mailto:cnar@cnar.jp)